愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要　第８号　2021.3　１－８

親性向上につながる家族対話とリフレクションを支援するファミリー・ポートフォリオの開発と評価

Development and Evaluation of Family Portfolio that aims to promote parental awareness and interpersonal interaction themes through reflective dialogues.

佐藤朝美　荒木淳子　今野　知　佐藤慎一
SATO Tomomi　ARAKI Junko　KONNO Satoru　SATO Shinichi

要　旨

本研究では，親性の向上を支援するファミリー・ポートフォリオを構築し，実践と評価を行った．教育現場で用いられるポートフォリオにより生じるフォリオシンキング（folio thinking）を親性の向上の支援原理として用い，カテゴリーや気持ちを付与して日常的に記録を取りためる機能，定期的な振り返りのために「家族新聞」を発行する機能を持つスマートフォンアプリを設計・開発した．家族20組を対象にした１ヶ月間の実証実験を行い，使用の前後に「親性尺度」の調査を実施し，その変化を検討するとともに機能を評価した．その結果，親性の「子どもへの認識」と「親役割以外の意識」の向上が示唆され，「記録が取れている」ことへの実感があがり，「親子の対話のきっかけになる」との意識が強まった．

キーワード：ｅポートフォリオ，親性，家族対話，生涯発達

１．はじめに

子どもの育ちに親の果たす役割は大きく，都市化，核家族化，家族形態の多様化による課題が増える中で，「家庭教育」に解決の糸口が求められる．文部科学省では，2011年に「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」を設置し，子育てに関する親の学びの促進，親の交流・地域参画促進，親と学校との信頼の構築，地域資材の活用力向上等，様々な取り組みを行っている．

親として成長するには，「子どもと向き合う」ことが必要であり，親自身が省察的に考え，実践していくための「リフレクションを促す家族対話」が重要であるという（Thomas 1996）．省察的な家族対話とは、親としての気づき（Parental Awareness：PA）を促し、親子の相互作用（Interpersonal Interaction Themes：IIT）がうまく行えることを指す．省察的な家族対話が親としての意識や子どもとの相互作用の変化を，さらには子育ての楽しさへの気づきをも

たらし，親自身の自尊感情を高めるという．現在，親が発達し，成長していけるよう持続可能な仕組みを作ることが求められている．

２. 本研究の目的

本研究では，子どもと向き合い，リフレクションを促す家族対話を引き出すよう継続的に支援し，家族内において学び合い，親として成長可能な環境を構築する．それらの要件を満たすためには，ポートフォリオによる支援が適切であると考える．教育分野でのポートフォリオには、ティーチング・ポートフォリオ（以下 TP）とラーニング・ポートフォリオ（以下 LP）の側面がある。TP では、教育者が教育活動の記録、振り返りを行うのに対し、LP では、学習者自身がさまざまな過程の記録等の蓄積から目標に対する学習を振り返るものである。

本研究で想定しているファミリー・ポートフォリオは、子どもの育ちに関わる育児情報やそれに対する気づきの記録である TP、写真や動画、作品を含めた子どもや家族の生の情報を蓄積する LP から構成される複合的なものであると考える。子どもの写真や映像，日記等，成長記録を取りためるという日常の行為を，ポートフォリオ研究の知見を適用することで，親としての発達を促す学びにつなげたいと考える（図１）.

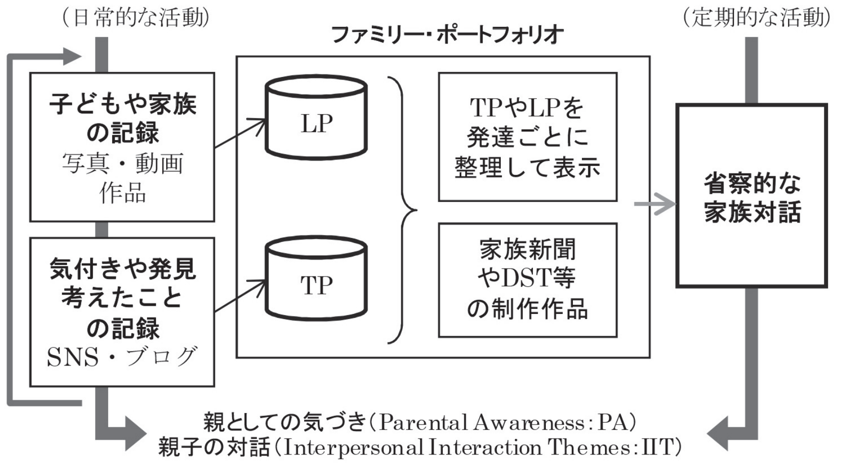


図１ 省察的な家族対話を促すファミリーポートフォリオの仕組み

「親性」とは，「母性と父性とを統合した性質で，親が自分の子どもを養い育てようとする性質」と定義され，大橋ら（2010）は，育児期の親性尺度を作成し，自己への認識と子どもへの認識として整理している（表１）．例えば，自己への認識の「親役割の状態」では，育児をすることに喜びを感じているか，親としての充実感を感じているか，子どもへの認識では，子どもの「欲求」，「性格」，「個性」がわかるか等を尋ねている．親としての発達は，子育てスキルの獲得にとどまらず，人格的・社会的発達を含み，子どもの成長発達にともないながら変化し，家族を取り巻く社会の変化に対応しながら親役割を再形成させていくものである．親性尺度は，それらを捉えるものと考える．

佐藤らは，子どもの制作物を記録・観賞する“ツクルミュージアム”アプリを開発し（Sato et al. 2014），アプリの使用が家族対話を促し，「親性」の一部の向上に寄与することを見出している（佐藤ら 2016）．そこで本研究では，支援する親の成長を「親性」として捉え，佐藤ら（2016）では支援されていない「親役割以外の状態」も支援対象にし，家族全体の記録を蓄積するファミリー・ポートフォリオ（以下 FP）を構築する．

表１ 親性尺度の要素（大橋ほか（2010）より筆者作成）

自己への認識	「親役割の状態」 子どもに接しながら，授乳や排泄の世話といった育児能力を身につけ，育児に関心を持ち親としての役割に満足感を抱いている状態 「親役割以外の状態」 夫や妻といった役割をもち社会で働く存在認識を示し，自己肯定感や社会との関係性を含む
子どもへの認識	子どもとの関係を育みながら，子どもの現在と今後の成長・発達の様子の理解を深め，愛情をいだきながら接している様子

３. ファミリー・ポートフォリオの開発

3.1 支援原理と設計要件

フォリオシンキング（folio thinking）は，ポートフォリオの有効活用によって起こる深い学習のことを指し，教師支援等の研究で有効性が明らかになっている（小川ら 2012）．本研究で支援する親性は，「子育てする親」を対象にしており，「学生を教える教師」のポートフォリオにより生じる学びの効果と重なる部分が大きいと考える．そこでフォリオシンキングが生じる深い学習を支援原理に用い，FP の設計要件の検討を行った．具体的には，下記３つの次元を FP に照らし合わせることで機能を設定した．また，日常気軽に写真を撮りためることができるよう，スマートフォンアプリとして実装した（図２）．

① フレクション (Reflection) →のこす機能

日々の出来事をリフレクションする機能を設ける．「誰」の出来事か，どんな「種類」の内容か，その時の「気持ち」はどうであったかと結びつけながら記録し，リフレクションを行うことで「親性」向上につなげるものとする．

② 統合 (Integration) →みる機能

撮りためた記録を見ることで，親性に関わる認識が統合されることを想定し，時間軸のあるデータを「作成順」,「誰」,「種類」,「気持ち」ごとに見る機能を設ける．

③ 他者と共有 (Sharing) →家族新聞

他者との共有を通して，より深い理解の助けになるという．親子や夫婦，家族全体で FP を共有することで「親性」項目への意識が向上されることを想定し，新聞発行機能を設ける．

3.2 機能の概要

① のこす機能

「のこす」ボタンを押すと，図３に示す画面が表示され，全体をスクロールで表示することができる．子どものこと，自身のこと，家事や育児のこと，パートナーのことなどを，タイトルやコメントとともにカテゴリー，気持ちの情報を付加しながら保存する．

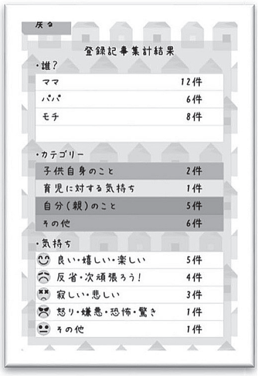
② みる機能

「みる」ボタンを押すと，みる画面が表示される．４つのボタンにより種類別にソート表示させ，どのような記事が登録されたか，振り返ることができる（図４）．

③ 家族新聞の発行機能

「家族 de 新聞」ボタンを押すと，１週間の出来事の新聞と記事の集計が画面に表示される．週に１度自動発行される新聞を見ながら家族のこと，子どもの様子など，記事を見ながら家族で対話をする（図５）．

起動画面
のこす：記録画面へ
みる:記録をみる画面へ
家族 de 新聞:新聞発行画面へ



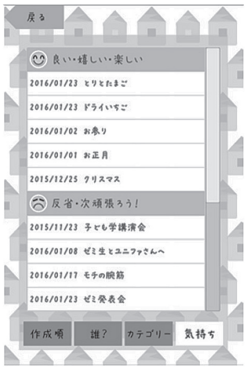
登録記事集計結果
誰？：記事の対象
カテゴリー：記事の種類
気持ち:記録の気持ちの種類

日付：変更可能
タイトル：記録のタイト
誰？: 記録主体(複数可)
画像:撮影 or 写真選択

コメント：記録内容
カテゴリー：記録の種類
気持ち:記録に対する気持ち
（新規追加可能）

図２ ファミリーポートフォリオ起動画面　　　図３ のこす画面

カテゴリー毎に表示



気持ち毎に表示

１週間の家族新聞

記事の集計表

図４ みる画面　　　図５ 家族 de 新聞画面

４. ファミリー・ポートフォリオの評価

4.1 調査協力者と分析データ

スマートフォンを所有している子育て期（子どもが乳幼児〜小学生）の家族20組（父20名，母20名，計40名）に，FP を１ヶ月間使用してもらった．父母のいずれか１台に FP をインストールし，代表して記録，週１回の新聞発行時には家族で閲覧するように依頼した．

FP 使用の前後に質問紙調査を実施した．「親性」（大橋・浅野2010）と「記録頻度や記録に対する意識」について事前事後の変化を見るほか，事後では FP の機能と活動に関する質問と要望の自由記述の欄を設けた．

4.2 事前・事後質問紙の結果

事前事後ともに回答のあった32名（父16名，母16名）を対象に対応のあるサンプルの t 検定により，事前事後の比較を行った．大橋・浅野（2010）に基づき親性尺度について信頼性を見たところいずれも十分な値であったため，各項目を単純加算後平均化し，「親役割の状態」「子どもへの認識」「親役割以外の状態」の３つを親性尺度として分析を行った（表２）．

「親役割以外」が有意（$t(31)=2.322$, $p<.05$）に上がり，「子どもへの認識」の向上にも有意傾向が見られた（$t(31)=1.978$, $p<.10$）．なお，「子どもへの認識」のみ事前事後の変化に父母の差が見られ，母親と比べ父親の方が事後に子どもへの認識が有意に高まっていた（$F(1,30)=9.89$, $p<.01$）．

ポートフォリオを記録するのは主に母親が行う家庭が多かったが，それらの記録を情報共有することにより，父親の「子どもへの認識」に影響したものと推察できる．「親役割」については，事前・事後ともに高いため（事前：4.23・事後：4.29），変化が見られなかったと考える．これらのことから，「親性」の向上は FP により支援されたと考える．

記録に対する意識については，事後に「記録が取れている」ことへの実感が上がり（$t(31)=-2.54$, $p<.05$），子どもや家族の記録については，「子どもや家族の記録は，親子の対話のきっかけとなる」（$t(31)=-2.97$, $p<.05$）が事後に有意に上がっていた．「子どもや家族の記録は，家族の対話のきっかけとなる」（$t(31)=-1.76$, $p<.10$）の向上にも有意傾向が見られた（表３）．FP は親子や家族間の対話を促していたといえる．

表２ 親性尺度の事前・事後質問紙の結果

			事前		事後		
	最小値	最大値	平均値	*SD*	平均値	*SD*	
親性尺度							
親役割	1	5	4.23	.49	4.29	.53	
子どもへの認識	1	5	3.50	.50	3.64	.52	†
親役割以外	1	5	3.97	.58	4.08	.59	*

†$p<.10$; *$p<.05$; **$p<.01$; ***$p<.001$　　$N=32$

表３ 記録に対する意識の事前・事後質問紙結果

			事前		事後	
	最小値	最大値	平均値	*SD*	平均値	*SD*
あなたは普段、子どもや家族についてどのぐらい記録を取れていると思いますか	1	5	2.78	1.13	3.16	.92 *
子どもや家族について記録することは、楽しい	1	5	4.00	.76	4.00	.95
子どもや家族について記録することは、大切だと思う	1	5	4.28	.68	4.38	.75
子どもや家族について記録することは、正直負担である	1	5	2.91	.82	2.97	1.12
子どもや家族について記録することは、子どもの成長をふり返るのに役立つ	1	5	4.31	.86	4.47	.67
子どもや家族について記録することは、自分自身の成長をふり返るのに役立つ	1	5	3.91	1.03	4.00	.88
子どもや家族について記録することで、子育てに関する考えがまとまる	1	5	3.22	.94	3.44	.95
子どもや家族について記録することで、自分自身のあり方に関する考えがまとまる	1	5	3.13	.98	3.38	1.07
子どもや家族の記録は、親子の対話のきっかけとなる	1	5	4.03	.74	4.38	.75 **
子どもや家族の記録は、夫婦の対話のきかっけとなる	1	5	4.07	.74	4.23	.73
子どもや家族の記録は、家族の対話のきっかけとなる	1	5	4.19	.70	4.39	.67 †

†p<.10; *p<.05; **p<.01; ***p<.001　　*N*=32

4.3 FP の機能と活動に関する質問紙の結果

各項目に対する５件法（1.まったく違う 2.違う 3.どちらともいえない 4.そのとおり 5.まったくそのとおり）の回答を肯定的な回答（4,5）と否定的な回答（1,2,3）に分けて二項検定を行った（表４）．その結果，のこす・みる（p<.01），家族新聞（p<.001）の機能が，「子どもの成長を振り返ることができた」に対して有意に肯定的な回答が得られた（表４）．

自由記述からは，「*記録に残すことを意識したため，日常のいろんなことを気にかけるようになった.*」や「*普段は気付かないような子どもの成長に気付くことが出来た.*」の他，「*妻と子供が日常なにをしているのか，なんとなくわかりました.*」「*自分が一緒に感じたり，体験出来なかったことを，共有できたと思う*」など，パートナーに対する気づきが促される様子が見られた.

表４ 機能と活動に関する事後質問紙の二項検定の結果

	のこす			みる			家族新聞対話		
	平均値	*SD*		平均値	*SD*		平均値	*SD*	
［＜子どもの成長＞を振り返ることができた。］	**3.97**	**.933**	**	**4.00**	**.950**	**	**4.06**	**.878**	***
［＜子どもの成長＞について新たに気づくことがあった。］	3.78	.870		**3.84**	**.920**	*	**3.88**	**.833**	**
［＜子どもの成長＞について深く考えることができた。］	3.75	.880		3.69	1.091		3.69	1.091	
［＜育児＞を振り返ることができた。］	3.88	.942		**3.91**	**.928**	**	**3.81**	**.931**	*
［＜育児＞について新たに気づくことがあった。］	3.41	1.073		3.53	.983		3.59	.946	
［＜育児＞について深く考えることができた。］	3.53	1.077		3.47	1.077		3.53	1.164	
［＜自分自身＞を振り返ることができた。］	3.38	1.040		3.38	1.070		3.41	1.073	
［＜自分自身＞について新たに気づくことがあった。］	2.97	.933		3.09	.995		3.28	1.054	
［＜自分自身＞について深く考えることができた。］	2.94	.914		2.97	1.092		3.19	1.061	
［＜パートナー（夫／妻）＞を振り返ることができた。］	3.28	1.085		3.38	1.070		3.47	1.107	
［＜パートナー（夫／妻）＞について新たに気づくことがあった。］	3.03	1.092		3.13	1.040		3.25	1.078	
［＜パートナー（夫／妻）＞について深く考えることができた。］	3.09	1.118		3.16	1.019		3.19	1.148	

†p<.10; *p<.05; **p<.01; ***p<.001　　*N*=32

５.考察と今後の課題

FP の１ヶ月の使用により，親性の「子どもへの認識」と「親役割以外の意識」の向上が示唆された．また，「記録が取れている」ことへの実感があがり，「親子の対話のきっかけになる」との意識が強まった．「のこす」「みる」「家族新聞」の機能は共通して「子どもの成長を

振り返ることができた」という実感につながり，「みる」「家族新聞」では，「子どもの成長について新たに気づくことがあった」「育児を振り返ることができた」という実感につながっていた．以上，FP の機能が「親性」に寄与する可能性が示唆された．現在求められている持続可能な支援のための具体例を示したことは意義深いことであると考える．

一方，以下の課題も挙げられる．機能と活動に関する質問項目では，自分自身に関する項目が低評価であった．父母各々で FP を使用できるようにし，自分に関する記録を行うよう支援，さらにそれらのデータを父母で共有していく方法も課題である．自由記述では，コメント欄の文字数不足の指摘があった．インタフェースを含め，検討していきたい．また，新聞発行期間が 1 週間では短いという指摘と期間の設定希望があった．各家族のペースに合わせ，新聞発行期間や振り返りの頻度をカスタマイズできるよう検討したい．

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP25350923の助成を受けたものです．

参考文献

小川賀代 , 小村道昭 (2012) 大学力を高める e ポートフォリオ . 東京電機大学出版局

大橋幸美 , 浅野みどり (2010) 育児期の親性尺度の開発：信頼性と妥当性の検討 . 日本看護研究学会雑誌 33(5), pp.45-53.

Thomas, R. (1996) Reflective dialogue parent education design: Focus on parent development. Family Relations, Vol. 45, No. 2 , pp. 189-200.

SATO,T.,KONO,S.ARAKI,J,SATO,S.(2014) Development of the Smartphone Application “Children’s Own Museum” as an Element of a Family Portfolio. Proceedings of ED-MEDIA 2014. pp.1007 -1011.

佐藤朝美 , 荒木淳子 , 今野知 , 佐藤慎一（2016）「制作物の記録と観賞」が親性へもたらす影響の分析．チャイルド・サイエンス VOL.12, p.39-43